

大大 愛媛大と松山 連携6事業の成果報告

愛媛大
松山

佐田岬半島商店研究など

愛媛大と松山大の連携事業成果報告会が26日、松山市文京町の愛媛大であった。2014年度で終了した6事業が報告され、両大の学生や教員ら約100人が成果や課題を共有した。

両大は10年3月に交流協定を締結し、連携事業を開始。愛媛大の

大橋裕一学長が「国立と私立の垣根を越えた連携事業で、ますます交流が活発化する」とあいさつした。

13～14年度に実施した佐田岬半島の農漁村での地域学習報告では、愛媛大大学院農学研究科の学生が、半島で商店が存続する率が高い点に着目。

理由として「雑貨販売とガソリンスタンドを合わせて営業するなど業種を複合的に組み合わせ、商圏を広げている」と説明した。

河内晩かんの果皮成分「オーラプテン」の保健機能の解明や、学生・教職員による障がい学生相互支援プログラムの報告もあった。

(伊藤愛)